

としょかん宇治

No. 18

1989年7月1日 発行

宇治市中央図書館

宇治市文化センター内

〒611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 (20) 1511



<朝霧橋から見た宇治川上流>

私と読書

宇治市図書館協議会委員
前川 桂 子

幼い私に、「ケツネ」や「タノキ」にだまされた「ご作どん」や「何んの何べえさん」のおはなしを(時には「〇〇佐衛門さん」とむつかしい名前が出て来るが)、語り聞かせてくれた祖母の目もと口もと顔の表情から、可笑しかったり、恐かったりと、語り手の世界に引き込まれ、「ケツネ」が「キツネ」で「タノキ」が「タヌキ」と分って来た年代には、本好きな少女に、読書のたのしみに目ざめていた。

小学生時代は、現在の高度情報化時代から見れば考えられない程、出版される本が限られ紙質も悪かった。幸と云うか、我が家には昭和二年から発行された世界文学全集があった。正に乱読である。小学五・六年頃には、ヴィクトル・ユゴーの「レ・ミゼラブル」に涙し、モーパッサンの「女の一生」「脂肪のかたまり」に、いっばしに精神的自立が出来ると思ひ込んだり、世界の国々への好奇心と共に、女学校一年国語の時間に「女の一生」と作者の話が出た事で、火に油をかけた様に私の読書熱をかき立てた。しかし戦争末期学徒動員、そして終戦。「縦の木は残った」の山本周五郎の作品が好きになり、「書物には全過去の魂が横たわる」トーマス・カーライルの言葉のごとくで、其の後の私の読書軌道は歴史物に移り、いま身近な郷土史学習の輪を広げる事に願いをかけている。

「ノルウェイの森」がトップ!!

——昨年度ベストリーダー——

昨年度一年間の利用統計がまとまりました。それによると昭和六十三年度の文学(小説・エッセイ)のベストリーダー(最もよく読まれた本)は村上春樹の「ノルウェイの森」が第一位となりました。また、小説・エッセイ以外では、俵万智の「サラダ記念日」が最も多く読まれています。両方とも、昨年ベストセラーとなった話題の本で、図書館での利用も多くなったものです。

貸出冊数は本館で三七五、〇一四冊、移動図書館九二、九二八冊、合計四六七、九四二冊になります。この数字は市民一人あたり二・七冊となっています。また、本館の一日平均の貸出冊数は一、三二〇冊で、一年間でのべ一五三、二〇八人の方が図書館で本を借りられました。

貸出券を持っておられる方(登録者)は、今年三月末現在で本館四二、三二七人、移動図書館は、一、八三二世帯で、これは全人口の二七・二%にあたります。(移動図

書館は世帯貸出のため一世帯三人として計算)

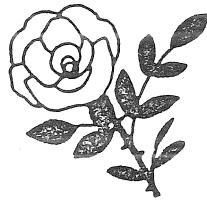
予約・リクエストの処理については、本館で七、八七七件、移動図書館一、七三六件、合計九、六一三件にのぼっています。

今年度、宇治市中央図書館では、移動図書館車「そよかぜ号」の更新とそのコンピュータ化、読書週間記念行事の開催など、利用者の方に対する読書環境の整備と信頼される図書館づくりを旨として、さらに努力をしていきたいと考えております。図書館は利用者の皆さんと共に育んでいく施設です。日頃感じてもらえることや「こうしてはどうか」と思ってお

ベストリーダー

文学 (小説・エッセイ)			利用回数
1	ノルウェイの森(下)	村上春樹	112
2	ノルウェイの森(上)	村上春樹	108
3	泥棒物語	赤川次郎	85
4	窓ぎわのトットちゃん	黒柳徹子	76
4	いつか誰かが殺される	赤川次郎	76
文学以外			
1	サラダ記念日	俵万智	50
2	宇治市史 6	林屋辰三郎他	33
3	宇治市史 2	林屋辰三郎他	29
4	カイワレ族の偏差値日記	村崎芙蓉子	28
4	ロンロンママの暮らしのお楽しみブック	西村玲子	28

られることがあれば、何でもお気軽にカウンターの職員までお申し出ください。お待ちしております。



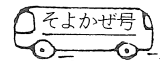
そよかぜ号が新しくなります!

現在の移動図書館「そよかぜ号」が走り始めて、もうすぐ十年になります。「そよかぜ号」は、八月より新車に切りかわり、三台目の移動図書館車として皆

さんのところに登場することになりました。今後ともよろしくお願いたします。なお、詳細については次号でお知らせする予定です。

はしれ!

そよかぜ号



四季折々美しい宇治川沿いを走り始めて十年になろうとしています。

「いや、こんなにちは、いい季節になりましたね。」

「うちの子、マンガばかり読んでるけど、ちゃんとした本読まさないかんと思っているねん。」

「何かおもしろいのない?」

横から女の子が、

「おぼちゃん、お母さんの本を選んで下さい。」

「そうね、こんな本はどう?」

「うん、ありがとう。」翌月、

「おかあさん、よろこんでました。又、選んで下さい。」

「ええ、いいわよ、ところでお母さんは?」

「赤ちゃんがいるのだからこれはないの。」

「そう、じゃあこんなのどうかね。」

赤ちゃん、はやく大きくなっておかあさん、おねえちゃんといっしょに来て下さいね。

毎日、皆さんとの出会いを楽しみに、本との出会いを喜んでいただけたらという願いを乗せて、これからも、もっとたくさんの方々の出会いがあります様に!

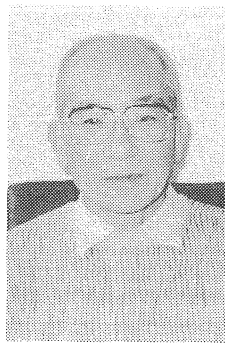
図書館へようこそ

利用者インタビュー

第 7 回

近 藤 善 孝 さん

今回の『図書館へようこそ』は小倉町南浦にお住まいの近藤善孝さん（六十五歳）にお聞きしました。近藤さんは公民館の木彫サークルに入っておられます。



— 図書館のご利用は……。
月に二、三回利用します。

— 利用されていて、感想をお聞かせください。

雰囲気静かで、受付の人も感じがよく、喜んでいきます。書名カードが置いてありますが、その調べ方がわからず、どういふ分類をしているのか少しわかりにくい。

また、同じような本と思われるのに分かれて置いてあることもあり、書架の表示もむずかしい気がします。新着案内はたまに見ます。

— リクエストや予約について、ご意見は……。

リクエストを出してから期間が長い時もあり、入るか入らないかの返事はできるだけ早くしてほしいですね。

— 図書館の蔵書について……。

美術関係など、私としては立派なものがそろいすぎている、と思います。

— どんな本を読まれますか。

小説はほとんど読みません。読むのは紀行文や趣味の本で、主なものは木彫や野菜づくり、それにカメラやオートバイなどの本です。— 公民館も利用されているそうですが……。

木彫サークルの一員として、公民館を使っています。公民館は趣味を生かす場ですが、図書館はそれらを調査・研究する場で、一人でも利用できるありがたい所だと思っています。

— 図書館について要望がありましたらどうぞ。

交通の便の悪い所にあり、もっと近くにあればよいと思います。— ありがとうございます。

さんぽみち

図書館の仕事には本を通して利用者の方と触れ合えるという大きな喜びがあります。読みたい本が見付かったと喜んでもらえる、とてもうれしいものですし、「おもしろかったわ」とか「この本はもう一つだった」と声をかけてもらうこともあります。

こんな風にいろんな方から本の情報を得る事ができるのは、図書館に働く大きな特権でもあります。他にも得る事ががあります。当たり前前の事ですが、常に周りに本と情報がいっぱいあります。本と出会う喜びを得るチャンスがたくさんある訳です。

取り分け、図書館にいればこそ手に出来たものに児童書があります。恐らく私が一利用者として図書館を訪れたら素通りしてしまうと思うのですが、その魅力を知るとすっかりとりこになってしまいます。無条件におもしろかったり、

楽しいテーマを抱えたものや、夢の世界に遊べるものまでいろんなお話があり、実に楽しいのです。かつて読んだ本に再び巡り会い、子どもの世界に戻る事が出来るかもしれません。そんな喜びを知っ

たらきつと誰かに奨めたくなくなるでしょう。

子ども達に本を読んで欲しいと思うのも決して「ためになる」からではなく、おもしろさを知って欲しいし、楽しさを分かち合いたいからなのです。心にズンとくるものを感じて欲しいからなのです。その為にもいろんな子ども達と友達になって気軽に話せるようにしたい、と常々思っているのですが、只今勉強中です。今のところ、月一回（第四水曜日）の「おはなしかい」にはたくさんの子どもの達がお話の世界で遊んでくれています。耳から入ってくるお話も、目に飛び込んでくる絵本も、一人で読む時とは違った楽しさがあります。

「子どもの本」と呼ばれるものもおもしろいものを、子ども達だけに任せておく手はありません。かつて子どもだった方達も、ちょっと足を止めて、恥ずかしがらずに手を伸ばしてみてください。ぜひ、おすすめます。

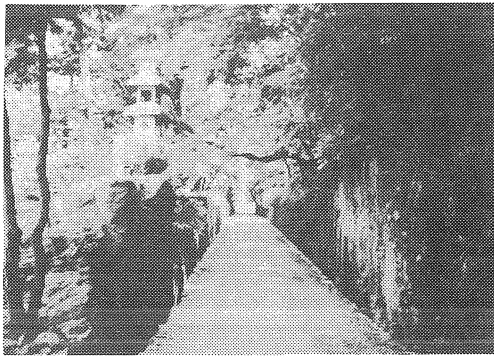


郷土のはなし

「興聖寺」

宇治橋より東岸を上流に歩き、宇治神社をすぎて少し行くと、川べりに面した興聖寺総門に出会います。総門を入り琴坂を登るとそこは幽玄にみちた別世界。

曹洞宗の専門道場として名高いこの寺の由来をたどると、宗祖道元にさかのぼります。道元は幼くして父母を亡くし、出家求道を志し、比叡山や建仁寺で学んだのち宋にわたり四年間の修行をしまし



＜興聖寺の琴坂＞

た。帰国後、一二三三年(天福一)宇治郡深草(京都市伏見区)の地に、興聖宝林寺を開きました。以後十一年間、道元以下の修行の場として栄えましたが、道元が越前の永平寺に移って以後荒廃しました。それを再興したのが、宇治の興聖寺です。

一六四八年(慶安元)淀十万石の城主、永井尚政は、父直勝の菩提を弔い、永井家の菩提寺にするため、曹洞の高僧万安英種を宇治に迎え、現在の地に再興したものです。

興聖寺は、春の花・秋の紅葉の名所として、古く宇治十二景にも「春岸の山吹」「興聖の晚鐘」がとりあげられています。新宇治川十景にも「琴坂の夕紅葉」が選ばれるなど四季おりおりの趣きをもった景観は、多くの人に親しまれています。また琴坂の名は、宇治川のせせらぎを琴の音と聞く趣向や、細長い坂の形からその名がついたといわれています。

坐禅堂のそけど今日はただの日か

しんかんとしづまる南天の庭

(尾山篤二郎)

琴坂の落葉ふみゆく老の杖

(高浜虚子)

本をかりるには

一 利用案内一

中央図書館

市内にお住まいの方、市内に通勤・通学されている方ならどなたでもかりられます。

- ・貸出は、1人3冊、3週間です。
- ・開館時間は、9時～17時です。
- ・休館日は、毎週月曜日・毎月末日 国民の祝日・年末年始 土曜・日曜もあいています。

移動図書館

月に市内25カ所を巡回しています。

- ・貸出は、1世帯に20冊までです。
- ・次回巡回日に返却して下さい。
- ・日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかぜ号」巡回日程をご覧ください。

(中央図書館の場所)



京阪宇治 または 近鉄大久保から 「太陽が丘」 行バス乗車 「折居台口」 バス停 下車すぐ



予約・リクエストもできます。

編集後記

一面の写真ですが、今回から市内の風景を載せていくことにしました。宇治を感じさせるものを順次、とり上げたいと考え

ています。どうぞよろしく。行政資料コーナーがオープンして、二年が過ぎました。不十分な点も多くありますが、行政情報を正確に提供できるよう努力いたしますので、皆さんのご利用をお待ちしています。